

YCD包接・R体 α リポ酸

R体単体への切り替えを提案

シクロケム

シクロケム(東京都中央区、☎03・5614・7147)は、血流改善

対応素材として γ ・シクロデキストリンの包接により安定化させた「R体 α リポ酸」を取り扱う。

α リポ酸は、S体とR体を50%ずつ含む「ラセミ体」よりも、単独で用いた方がより効果的であるという研究データが出

ている。

さらに同社の最近の研究では、S体の α リポ酸が生体内液中に血清アルブミンなどのタンパク質が存在すると凝集体を形成する(R体では起こらない)ことが見い出されており、リポ酸の体内摂取にはR体 α リポ酸を単体で摂取した方が望ましいことを確認している。

これまで、R体 α リポ酸は不安定な性質を持つ

ことから単独では製品化されてこなかった。S体から分離して単独になると、空気や熱、光、水分存在下で急速に分解し、粘性を有する不溶性ポリマーに変化してしまう。

そのために、錠剤やカプセル剤などでは溶解性が減少して、吸収が妨げられるなどの難点があった。

そこで同社では、 γ ・シクロデキストリンでR

体 α リポ酸を包接すること

で熱や光、胃酸などに對する極めて高い安定性を確立させ、R体単体での製品化を実現した。

R体を単独で摂取することで、S体の α リポ酸が生体内液中のタンパク質と形成する凝集体などの影響を回避し、より安全で効果的な体内作用が期待できるようになった。

R体 α リポ酸は、糖代謝を改善することによって糖とタンパク質の結合反応である糖化を抑制す

る働きがある。

そのメカニズムは、体内のピルビン酸からアセチルCoA生成に關与するピルビン酸脱水素酵素(PDH)の活性を増大させることで、糖代謝を高めるといふもの。

従来用いられてきたS体とR体が等量ずつ含まれるラセミ体に比べて、糖尿病における血糖値のコントロール、さらにはさまざまな合併症の予防に、より有効であることが判明している。